

第357号

2012年

1

月号

# 同友ぐんま

発行/群馬中小企業家同友会 〒371-0013 前橋市西片貝町1-300-5 ルアン第二ビル4F TEL 027-232-0001 FAX 027-232-0666 E-mail g-douyu@po.wind.ne.jp

## 2011 経営研究集会・基調講演



# 再建する、必ず。

～3・11あの時、そしてこれから～

(株)八木澤商店 会長(八代目) 河野 和義氏

二〇〇〇年の歴史が、たった一〇分で流された。建物は厚い壁の土蔵づくり、火災には強いが津波にはまったく弱かった。昭和三十五年、高校一年生のときにチリ津波があったが、自分の集落は流されていない。家の裏に四〇〇年の歴史を持つ文化財があるので、少なくとも四〇〇年は津波が入ったことのない地域。「ここまで来ないよ」と、家のなかで亡くなった住民も大勢いる。チリ津波が高さ六メートルだったため、同じ高さの防波堤をつくった。現在は跡形もない。今回の津波の高さは推定二〇メートルと言われる。信じられない高さだった。

### ◆あの時:

三月十一日、私は東京にいた。会議が予定より早めに終わり、二時四〇分の新幹線に乗ったが、上野駅を過ぎたあたりで急に止まった。新幹線は地震を感じ

知すると止まるものらしい。その後、大きく揺れた。数日前の宮城県沖地震から震源地が南に下がり、関東大震災が発生したと思った。真つ暗なトンネルに二時間三〇分あまり閉じ込められ、上野駅で降ろされた。駅構内からは締め出され、ホテルはおろかタクシーも拾えない状態。東京は当てもなく歩く人たちが溢れていた。私も家内の妹が住んでいる駒込に向かって歩く。深夜に辿り着きテレビを見た。家がない、会社がない、すべてがなかった。こんなことがあるだろうか。家族や社員、会社のことは諦めた。

東京の友人が画策し、レンタカーを借りてくれた。給油制限についても運送会社の友人がガソリンスタンドと交渉し、満タンに入れられた。さらに東北自動車道の通行許可証を貰ってくれた。十四日に東京を出発、東



北海道を走る民間車は私だけである。友人たちの協力により六時間で一関市に着くことができた。陸前高田に到着し、歩いて山を越える。変わり果てた町の姿が眼前に広がった。翌朝、避難所を巡って家族に会い、社員に会えた。社員と一緒に会社を見に行く。人間は想像以上のことが起こると泣かない。あきれ果てて笑うしかなかった。後日、「笑っていたので気が狂ったかと思った」と社員は言っていた。私は潔く二〇〇年続く八木澤商店の歴史をどう閉じるかを考えた。ただ、社員を路頭に迷わすわけにはいかない。内陸の友人・知人をお願いするつもりだった。

◆それぞれが役割を担い

同友会気仙支部の幹事長を務める息子は、避難所にもなっていた高田自動車学校（気仙支部長）のもとに集まっていた。内陸の同友会メンバーがいち早くガソリンとプレハブを自動車学校に供給。また、七五〇メートルに及ぶパイプを裏山の沢から引き、シャワー設備を整えてくれた。八木澤商店の仮設事務所も同友会メンバーが建てたものである。

私は母が運ばれたという内陸の病院に向かった。笑い話だが、ヘリで運ばれたため「八木澤の婆ちゃんは空に飛んだ」天国に行っちゃった」と近所の年配者は勘違いしていた（笑）。一山越える携帯電話が通じる。病院へ往復する間、携帯電話が鳴り続けた。「足りないものはあるか？」「そっちに向けて出発した」など、ありがたい友人たちからの電話だった。私は物資供給の最前線の役割を買って出た。



自衛隊が避難所に救援物資を届け始める。最初の晩は一つのオニギリを家族で分け合う状態だったが、一週間もすると避難所の物資は豊かになった。悲惨だったのは家が無事だった人たち。電気と水道がストップし、水も食料もない。なぜ避難所に貰いに行かないのか？「避難所の人たちは家も家族も失った。自分たちが食べ物を買うわけには…」と話す。行政が住民サ-

ビスをできる状態ではない。そこで避難所に集まった救援物資を、自動車学校社員・八木澤社員・同友会会員たちで、家が無事だった住民に個配することに。八木澤商店の社員、四〇人中二十五人が家を失い、一〇人が家族を亡くした。家族を亡くした一〇人には「遺体を探さない」と伝えたが、他の社員たちは自然と集まった。二〇〇年の御礼を兼ねて物資を配ってほしい。私はまだ、どう潔く会社を閉めるかを考えていた。しかし、息子は流される会社を見ながら「やるぞ」と考えていたらしい。閉める気など一切なかった。

震災の晩、八木澤商店の社員は大活躍だったと聞く。個配から帰った社員には笑顔が戻っていった。八木澤商店は社員を「社員」としては見ない。昔から昼飯を全員同じテーブルで食べていた。「同じ釜の飯を食う」。それが八木澤の慣わし。社員は「家族」である。三月二十三日、家族のために私は廃業の撤回を決心した。

八木澤商店

- 創業 1807年
- 資本金 1,000万円
- 年商 4億円
- 社員数 40人
- 事業内容 醤油・味噌・つゆ・たれ・漬物製造販売
- 岩手同友会会員（現社長）

津波で壊滅的な打撃を受けた岩手県陸前高田市。八木澤商店はこの地において、200年以上にわたり醤油や味噌を製造してきた老舗企業である。岩手県産の大豆や小麦を使った「生揚醤油」、陸前高田近郊の大豆やコメを使った「おらほの味噌」など、無添加の醤油や味噌で全国に根強いファンがいる。

品質に対する評価も高く、2009年全国醤油品評会では同社の醤油が日本一に相当する農林水産省の筆頭に選ばれる。白壁のなまこ壁、店構えも創業1807年に相応しいものであった。しかし、今回の巨大地震によって工場もろとも瓦礫の山と化し、200年以上営々と積み上げてきた生産機能は失われた。

現在は一関市大東町に営業拠点を設け、秋田・宮城の醸造元で委託製造された醤油と味噌を販売するなど、社員を一人も解雇することなく新たな一歩を踏み出している。「震災に絶対負けない。必ず震災前の八木澤商店と同じ味の醤油をつくり、再建したい」と河野会長。今、地域と共に歩んできた老舗の底力を見せつけるとき…。

◆新たな船出  
四月一日、社員を集めて三月分の給与を支払う。私が会長、息子が社長になった。「立て直しに二〇年はかかる。オレが社長になって決断したほうが良い」という息子の提案を飲んだ。数年前から銀行関係と人事権は譲っている。社長交代が少し早まっただけ。しかし、前日には大喧嘩があった。新入社員を迎え入れるかについてだ。「解雇しないのはわかるが、何も新入社員まで呼ぶこたねえ」と私。息子は言い返した。「親父、オレに今まで何を教えてきた。どんなに小さな会社も信用が一番だ。信用は約束を守ることから付いてくる。新入社員と約束したんだ。社長になった途端に嘘はつきたくない」と言う。「わかった。新入社員を一番前に座らせて『すべて何もかもなくなりました。こんな会社でも入っていただけますか』と聞け」と言った。当日、新入社員二名



意先に取引を続けてほしいと頭を下げてまわる毎日。欠品トラブルが続出するなか大胆な販売戦略を打ち出す。「根拠のないことを経営者は言うべきではない。ただし、この危機的な状況においては、リーダーは嘘でもハタタリでもいいから大丈夫だから安心しろ」と言うことが凄く重要だと思ふ。言つたからには責任を持てば良い、全力で仕事をすれば良い」。

強気で走り続ける新社長。そこには焦りもあった。「我々は製造会社なので、つくつてナンボ。それができないジレンマは物凄いですよ」。伝統を守る誇りや醤油造りの情熱は行き場を失つていた。ところが奇跡的に津波の被害を免れた諸味が見つかる。菌を培養すれば数年後には伝統の味を復元することは可能だ。しかし、その日を待つてはいられない。製造機能を早期に回復させないと雇用は守り通せない。河野氏は故郷を離れる決断を迫られる…。

一関市内の敷地に製造工場を建設すること。悩み抜いたうえでの決断だった。「陸前高田に戻らないわけではない。当面は八木澤商店は裏切つた」という声があるかもしれないが、行動



と結果で返していく」。あの日から半年、八木澤商店の新しい歴史が始まる。変えることの出来ないものを受け入れる心の静けさと、変えるべきものを変える勇氣。それが道を切り拓いていくと信じて。

「お客さんの喜ぶ顔を一日でも早く取り戻すことが、一番の優先順位として考えなければいけない。それが社員の生きる、八木澤商店での生きるになつて行くと思ふ」。完全に復興できるその日を夢見て、長い道のりの第一歩を踏み出した。【完】

私の口から言うのもなんだが、確かに息子である。経営権を委ねたからには一言も口を出してはダメ。我慢するのが大変だった。親父がガタガタ言っていたら何にもならない。今はいち経営者・後継者として見てい

る。あそこまで育ててくれたのは私ではない。同友会の仲間たち、先輩たちであるとハッキリ言える。「真剣だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつくが出る」。愚痴と言いつく経営者になつていないだろうか？人間だから仕方がない部分もある。ただし、愚痴や言い訳をしたら懺悔すること。そうすれば真剣になつていく。

#### ◆復興に向かつて

普段から株式会社陸前高田として考えている。平成元年、あの小さな町で全国の和太鼓を集め、「太鼓フェスティバル」を始めた。いつのまにか「和太鼓の聖地」和太鼓の甲子園」と言われるまでになった。(株)陸前高田の立派な商品である。地域の人たちには「醤油をつくらないうであんなことを」と言われ、遊んでいるよう見られた。違う。陸前高田に少しでも目を向けてもらいたいからだ。今年のフェスティバルは中止の予定であった。しかし、青年会議所や名古屋市の協力のもと、「全国太鼓フェス in 名古屋ドーム」が開催できた。全国の仲間がノーギョラで駆けつけてくれた。名古屋の河村市長は陸前高田に何度も



足を運んでくれて、すっかり仲良しになった。河村市長がカン

パを二千万円以上集めて、修学旅行ができなかった陸前高田の中学生を名古屋に招待してくれた。そうした救いの手に甘えてはいるが、少しずつ町が復興に向かつている。

八戸から南三陸にいたる海岸沿い。八木澤商店の得意先である水産加工会社、十数社が壊滅した。届けていた醤油・味噌だけで売上の四〇%にも上る。ここきて活きの良い水産加工会社も現われ、だんだん活気が戻ってきた。三陸産のイクラは八木澤商店のタレを使っている。そろそろ鮭が登り始めているの

私たちはできること。  
それはお客様と  
未来の地球のために、  
やさしい企業であること。

#### 「水なし印刷」をお勧めします

「水なし印刷」は、有害な廃液を含む湿し水を一切使用せず  
現像工程の現像液使用量・廃液量も大幅減、またCO<sub>2</sub>排出量も削減します。  
環境への負荷が格段に少ない印刷システムです。  
私たちは、これからも環境に、お客様にやさしい企業を目指します。



JOBU PRINTING CO., LTD.  
TELEPHONE 027(352)7445 FACSIMILE 027(352)2953  
E-mail: eigyo@jp-t.co.jp URL: http://www.jp-t.co.jp

上武印刷株式会社 〒370-0015 高崎市島野町890-25



で「早くつくれ」と急かされる。内陸の食品工場を借りてタレをつくり始めた。まもなく工場建設の着工も始まる。

陸前高田の仮設商店街は盛況である。商売したい人を募ると次々と手を挙げた。また、全国各地から支援の申し出があり、テントや太陽光発電、循環型トイレなどを設置してくれた。たいへん感謝している。どうせ仮設商店街をつくるなら、他の被災地の見本となるようなものになりたい。その中心は同友会メン



バーである。同友会が地域になかったことを想像するとゾッとする。今は後ろを振り返らない。ただただ前に進むのみ。

◆地域づくり、町づくり

仮設住宅の建設は地元で雇用が一つも生まれなかった。プレハブ会社が儲かっただけ。一棟五四〇万円である。気仙一帯は気仙杉と気仙大工・宮大工の町。かつては明治神宮や桜田門も手掛けた。なぜ地元大工の力を借りないのか？気仙杉を使い、気仙大工のワザで住宅を建てれば、林業も活性化して雇用も生まれるのに。陸前高田に隣接して住田町がある。九〇%以上が森林の町だ。住田町長は陸前高田のために、気仙杉と気仙大工で仮設住宅を建てる計画を立てた。震災前から気仙大工復活の目論みがあったのは確かだが、プレハブより安い二五〇万円建てられた。一〇〇棟で二億五〇〇〇万円である。すると

を組んだ。また、住田町長の男気を知り、音楽家の坂本龍一さんが三億円を寄付してくれた。その噂を聞きつけた国と県は急いで予算を組み直し「一緒にやったことにしてくれ」と頼んできた。もちろん町長はその話を蹴飛ばした。住田町長はサムライだ。国会議員より遥かに腹を括っている。

国と県からクレームがきた。「予算が決まっていないのに勝手なことするな」。対して住田町長は「家がないのに予算なんか待ってられるか、国の予算なんかいらねえ」と、特別議会を開き、全会一致で陸前高田のために二億五〇〇〇万円の補正予算

宮城県南三陸、岩手県の大槌、陸前高田。この三つの町を「超特区」にするよう働きかけている。以前から財政難の町なので国や県に頼る以外はない。しかし、資金が出たとしても縦割り行政では使い方に制限がある。今までの法律なんてクソくらえ。そんなのに従っていたら前に進めない。だから気仙一帯を超特区にするのだ。行政だけに任せてはおけない。民間人ができるのは雇用をしたかにつくること。そこには同友会の仲間がいる。互いの地域で「町づくりのコンテストをしよう」と言い合っている。審査員は訪れた方たち。皆さんには何度も気仙に足を運んでほしい。イタリアはフィレンツェでも声が上がった。気仙大工とイタリア大工のワザで木造小学校を建てる計画だ。大工同士のつながり、町



同士の提携など夢は広がっていく。どんどんプラス発想していくべきだ。

◆後世へと伝える

子供から年配者まで命からがら逃げた。陸前高田全体で震災孤児が三十三人。助けてくれた年寄りが波に流されていく姿を子供たちは見ている。トラウマ

である。避難所もリーダーによって天と地ほどの差があった。中心になって人々をまとめ、前へ前へと進んでいくリーダーの存在が求められる。普段から防災の意識を高めておくのが望ましい。八木澤商店でも年二回は津波の避難訓練を行っていた。あの日も訓練どおり高台に走っ



た。指定の公民館や学校に逃げた人たちは皆死んでいる。私の家内と娘と孫は、指定の避難所に誘導する係の指示を無視して、車を壊しながら山道を登った。八木澤商店の社員は年配者を背負って階段を駆け登り、振り返ると階段がなかったという。私は妹を探すため何百体と遺体を見て歩いた。途中からは

涙も出ない。異常な光景である。この震災は絶対に何百年と忘れてはならない。後世へと伝える語り部をたくさんつくるのが大切だ。将来、国際防災短期大学を陸前高田につくることも考えている。

私の母校、立教大学から延べ数百人の学生がボランティアにきた。その御礼として同校内で講演をした。

「何かをしてあげたい。でも何をしたら良いかわからない」という質問があった。私の答えは簡単である。「無理に瓦礫撤去に行くことはない。常に陸前高田のことを気にかけて、忘れないでいてほしい。そこが最大の応援だ」。皆さんは時を経ては忘れてしまうかもしれない。私たちは一生忘れない。

◆震災のおかげで：  
水俣病患者に教わった言葉で最後に申し上げる。「わたしやねえ、水俣病のおかげで色んな発見があったとよ。人様と過去は変えられないのね。自分さえ変わればナンボでも未来は変わるんよ。世界で一番キレイな言葉はありがとうよ。最近の日本は家族でも友だちでもありがとうって言う言葉が減ってきた。私は水俣病を恨んだこともあったけど、今はおかげで色んな人と友だちになったし、色んな体験ができた」。その言葉をそっくりそのまま使わせていただくと。震災のおかげで新しい発見があった。人間とは、生きることは。当たり前平凡に商売してきたことがどれだけ素晴らしいことか、家族がいることがどれだけ素晴らしいことか、気づかせてもらった。ありがとう。

◆資金調達のエピソード  
息子が「資金はファンドで集めるから」と言った。ミュージックセキユリティーズという音楽家や芸術家などを支援する代物だ。「辞めろ、恥をかくだけだ」と、また大喧嘩になった。「こんなリスクの高い会社に誰も投資などするはずがない」と思っていた。「やってみなけりゃわかんねえ」。口論の末、息子の熱意を尊重した。目標は五千万円、申し込みはすべてインターネットである。五月二十日に発表し、七月二十八日に満額となった。驚いたのはその中身である。一口一百万円の投資で三千万円以上は二十代、三十代の若者たちが出資してくれたのだ。「日本もまだまだ捨てたも



「何かをしてあげたい。でも何をしたら良いかわからない」という質問があった。私の答えは簡単である。「無理に瓦礫撤去に行くことはない。常に陸前高田のことを気にかけて、忘れないでいてほしい。そこが最大の応援だ」。皆さんは時を経ては忘れてしまうかもしれない。私たちは一生忘れない。

◆再建する、必ず。その決意は？  
決して資金の内部留保が潤沢にあつたからではない。「再建する」と言ったのは津波への怒り、そして意地だった。震災後、

大手警備保障会社の社長である友人から「男性社員、何名かなら面倒をみられる」という話があった。従業員は約三千五百人、年商百億円以上という安定した会社。正直悪くない話だと思つた。早速、会社に帰って社員に相談したが、なぜか誰も手を挙げない。「家族と言つたのは嘘だったのですか、自分たちを身売りする気ですか」と社員たちは言ってきた。そのとき私は気づいた。会社の大小や給料の高低ではなく、「この親子と一緒に八木澤商店を立て直そう」と、社員も腹を括ってくれたことを。その後、現在まで役員報酬は一切もらっていない。五人の役員報酬がなくなれば、七、八人の若い社員に給料が払える。私は年金で暮らせるので腹を括った。誤算は社長まで「給料をもらわない」と言い出したことだ。息子は三十八才、子供もまだ小さい。だから私は「少なくとも社長の給料くらいは皆で稼ぎ出してほしい」と社員に頼んだ。しかし、息子は「なんとかなる」と意地を張ったままだ。八木澤商店には資金力があつたわけではない。ここで簡単に諦めるのと、抵抗するだけしかから白旗を挙げるのでは訳が違

う。それが私の生き様だ。  
◆資金調達のエピソード  
息子が「資金はファンドで集めるから」と言った。ミュージックセキユリティーズという音楽家や芸術家などを支援する代物だ。「辞めろ、恥をかくだけだ」と、また大喧嘩になった。「こんなリスクの高い会社に誰も投資などするはずがない」と思っていた。「やってみなけりゃわかんねえ」。口論の末、息子の熱意を尊重した。目標は五千万円、申し込みはすべてインターネットである。五月二十日に発表し、七月二十八日に満額となった。驚いたのはその中身である。一口一百万円の投資で三千万円以上は二十代、三十代の若者たちが出資してくれたのだ。「日本もまだまだ捨てたも

んじやない」と、正直涙が溢れた。「お金は戻らなくても良い。投資をさせてもらうだけで」と彼らは言ってくれる。ファンドの見方を変えなければいけないと心から思った。

◆新しい産業をつくり出す

会社は環境に応じて変化しなければならぬ。八木澤商店は醸造業だが、次の事業としてエネルギー開発の分野も考えている。陸前高田を小さな国として考えれば、これから必要になるのはガソリンや電気などのエネルギー。特にクリーンエネルギーの開発が急務である。同友会のメンバー内でも「陸前高田にあるものでエネルギーをつくる」と本気になって考えている。今回のような事態に遭わなければ考えなかつたはず。震災以前なら「採算が合う、合わない」。そんな話に終始していただろう。ブラジルなどでは、トウモロコシや小麦でつくったバイオエタノールがガソリンとして使われている。法律が変われば日本もエタノールで走る車が出来る。新しい産業をつくり出し、地域に雇用を生み出していききたい。

◆会社経営と同友会

同友会で勉強したことを息子

が話すので、「頭で商売するんじゃないか」とよく言ったものだ。しかし、喧嘩を繰り返すにつれ「息子の意見も正論である」と思うようになった。この正論を教えてくれたのは他でもない同友会だ。以前の息子は本当に口先だけの生意気な経営者さだまりだった。その鼻をバキバキ折ってくれたのが同友会である。経営指針の勉強会では、仲間たちが真剣に怒り、ときに泣きながら

ら経営者として未熟な部分を指摘してくれる。自分の父親が言っても効果がない。仲間や先輩に言われて初めて素直になれるものだ。先輩の言うことは必ず一理ある。素直に聴く耳を持つことがプラス思考の最初だと思う。若い会員は町の復興のために本当によくやっている。国の補助金を待ってもいつ来るかわからない。自ら率先してやること、チャレンジすることが大切である。チャレンジすること



初めて救いの手も差し延べられない。震災のせい、国のせいにしてはいけぬ。もらうことだけを考えていたら、可哀想な被災者になる。マイナス発想はしないこと。なければならぬに知恵を出す。会社経営も同じである。後ろは振り返らず、ただひたすら前に進むしかない。

◆地域とともに歩む

陸前高田市長のところへ国会議員が挨拶に来る。被災地の写真、被災者との写真を必ず撮っ



ていく。キャンペーンの一つだろう。おそらく自分のことしか考えていない。同友会の仲間は自分の事だけを考えて商売をしないではない。相手を思いやること、地域に役立つ商売を考え

れば、儲けは必ず後からついてくる。そして良好な人間関係を築けるはずだ。自分の利益だけを考えた商売は必ず失敗するだろう。八木澤商店も地域とともに歩んだことで儲けがついてきた。民間と行政の間には大きな温度差がある。ただし、「良い町にしたい」という想いは共通だ。今後は同じ温度、方向を見なければならぬ。そうしなければ良い町はつけれない。近いうちにコンテストを開催する。何度も足を運んで審査員になってほしい。十年後の陸前高田に期待してもらいたい。

サーベイメータ、ベクレル計、核種分析機器、ホールボディカウンターまで!

… 放射線測定のことなら …  
… ユニオンへ …

 株式会社 **ユニオン**

〒370-0862 群馬県高崎市片岡町3-2-11  
TEL:027-323-1234 / FAX:027-323-6809

カリキュラムは発表会を残すのみ  
「経営指針をつくる会」第5講

アクションプランの課題を検討

2011 共育研修会・第4回

十二月二日(金)・三日(土)

の二日間、「第十六期・経営指針をつくる会」の第五講を開催。日に日に厳しさを増す寒さとは対照的に、回を重ねるごとに熱気を帯びた学びの場になっています。

一日目は、宿題として提起されてきた「予測貸借対照表」の全体発表&グループ発表からスタート。来期以降の売上目標や

利益目標の達成に必須となる、資金繰り予測や改善ポイントを参加者それぞれが披露しました。適宜投げ掛けられる講師の指摘、参加者同士のアドバイスにより、内容をさらに深めました。

「組織と会議制度」の講義で

は、丸橋氏が基本概念や原則などを中心に説明。また、事例研究「中小企業の組織づくり〜わが社の変遷から〜」をテーマに、グリーンリーフ(株)・澤浦氏が報告。家業から企業へと移り変わるなか、組織づくりをいかに進めてきたかを豊富なエピソードを交えて話しました。

一日目の夜から二日目にかけては「行動計画の講義&作成」を実施。経営方針や数値目標の達成を念頭に、営業計画や開発計画などについて具体的な計画書に落とし込みました。

二日目の後半は、経営理念の作成を出発点とした一連の経営指針づくりを各自が総覧。矛盾点は是正や各項目の再考に取り組みました。

これで全六講のうち五講までが終了。残すは二月の「経営指針発表会」のみとなりました。その晴れ舞台には見学参加者を広く募集しますので、ぜひ会場に足をお運びください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

十二月十四日

(水)、「二〇一」共育研修会・第四回」が開催されました。

初めに事例発表として、赤城フーズ(株)・森田眞市氏、(有)月夜野きのご園・金子昌樹氏の二名が、アクションプランに基づく進捗状況を全体の中で報告。資料や画像を使いながら取り組みを紹介しました。

その後、「うまくいっている点、悩んでいる点」をテーマにグループ討論を実施。「成果をどのように計ればよいのか分からない」「部下に思うように伝わらない」など、それぞれが直面する課題をもとに、その解決策について意見を交わしました。

会社別ミーティングでは、アクションプラン実行によって顕在化した課題を検討。ここまでの進捗状況を精査すると同時に、問題点を明らかにしてい

ました。認識を共有することで、場当たりのではない継続的な活動につなげていきます。

参加者アンケートには、「各企業が工夫を凝らし、目標達成に向けて進展している様子が伺えた」「到達点を具体的にすることで、自分のやるべきことが明確になった」「異業種とはいえ共通の悩みも多く、とても参考になった」などが綴られています。



**北関東M & A** (株式会社さくら会計)  
www.kitakanto-ma.co.jp

〒371-0801  
群馬県前橋市文京町3-25-12  
TEL: 027-260-8630

**研削加工のワンストップショッピング**  
円筒研削・内面研削・成形研削・プロファイル研削  
FAX1枚で完成品をお届け

株式会社 **アミイダ**

〒373-0806 群馬県太田市龍舞町4645  
TEL / 0276-30-3570 FAX / 0276-30-3575  
URL / www.actpg.co.jp

後継者問題でお悩みの経営者のみなさまへ  
一人で悩まずご相談下さい。秘密は必ず守ります。

# 会員たんしん

同友会のホームページで  
会員検索できます。

## 【みどり市に葬祭施設】

(株)メモリード

冠婚葬祭業の(株)メモリード、副参事・戸塚邦夫氏(前橋支部所属)は、みどり市笠懸町阿左美に、同社では市内初の葬祭施設「かさかけメモリードホール」を開設、28日から一般葬祭用の利用を受け入れる。

24日に完成を記念した祝賀式、25~27日は一般向けの見学会を行う。同社は「ゆったりとした施設。法事などにも利用してほしい」と活用を呼び掛けている。  
[11/24付上毛]

## 【研究開発、ブランド力強化へ】

ルアン(株)

増毛商品「スーパーミリオンヘアー」などを製造販売するルアン(株)、代表取締役・阿部稔氏(前橋支部所属)は、約14億円を投じ、東京・銀座に地下1階、地上11階建ての本社ビルを建設、来年9月にも本社を移転する。世界のトップブランドが集う銀座に進出することで、輸出強化に向けたブランド力のさらなるアップを図るとともに、最先端の情報の収集により研究開発につなげる。2階には常設ステージを用意、ダンスや大道芸、手品などの“パフォーマー”に利用してもらおう。銀座の新たな集客スポットが誕生することになりそうだ。

阿部社長は「15年ほど前から検討していた。銀座に拠点があることで、世界に発信できるとともに世界の情報が遅れずに入ってくる。社員の士気も高まり、優秀な人材の獲得にもつながってくるはず。現状、全体の約1割の輸出を将来には5割以上に高めたい」と話す。  
[12/8付ぐん経]

## 【十石みそ納豆発売】

(有)下仁田納豆

こだわりの納豆を製造・販売する(有)下仁田納豆、代表取締役・南都隆道氏(高崎支部所属)は、13日、「十石みそ納豆」を新発売する。

上野村の特産品の麦味噌「十石みそ」とのコラボレーションによるタレ(化学調味料不使用)を添付。大豆は北海道産のスズマル(小粒)を使用した。容器は環境負荷軽減の為のフィルムレスとした。40g×2個で小売価格は158円。  
[12/8付ぐん経]

## 【プラモデルボールペンを開発】

星合成(株)

プラスチック成形、金型設計、製作を手掛ける星合成(株)、取締役社長・春山彰宏氏(前橋支部所属)はこのほど、クリップ型のプラモデルボールペンを開発、商品化した。本体部分に、顧客の要望に応じた名入れやキャラクターデザインが可能なユニークな商品で、ノベルティーグッズやショップのオリジナル商品向けなどとして提案。近く開設するウェブショップを通じて、本格展開していく方針で、胸ポケットに差し込むだけで人目を引く存在感はもちろん、10個から注文可能という手頃感からも注目を集めそうだ。

春山氏は「名入れグッズは星の数ほどあり、中国製など価格が安いものに目が行き勝ちだが、多少高くてもノベルティーという性質上、愛着を持ってもらえる商品が作れば、需要は見込めると思い考案した。まずは、たくさんの人の目に触れることが大事なので、積極的にPRしていければ」と話す。  
[12/15付ぐん経]

## 【太田でM&Aセミナー】

(株)さくら会計

北関東M&A(株)さくら会計、代表取締役・岡部雅之氏(前橋支部所属)は8日、ロイヤルチェスター太田で「事業承継セミナー」を開いた。M&Aを考える中小企業経営者ら約40人が出席、中小企業の現状や事例報告などに耳を傾けた。

3部構成で行われ、1部では岡部社長が「中小企業M&A実録」と題し講演。この中で岡部社長は事業承継の選択肢を示した上で「会社借入金への連帯保証や株式買収資金を考えると、『親族への事業承継』か『第三者へのM&A』に絞られる」と述べた。

一方、3部では「北関東M&A」の仲介により同業者の事業を引き継いだ、機械部品洗浄の(株)日乃出、代表取締役・古郡登氏(伊勢崎支部所属)が体験談を報告。当初M&Aについて古郡社長は「知ってはいたが、大企業の話で、中小の当社には関係ないと思っていた」が、実施に踏み切ったのは「相乗効果が期待できると思った。当社とは異なる洗浄のノウハウも譲り受けることで事業のさらなる成長につながる」と判断したからだと話した。  
[12/15付ぐん経]

## 【無垢材でモデル住宅】

(株)大五建設

四季の住まい(株)大五建設、代表取締役・小井土靖氏(高崎支部所属)は1月2日、同市並榎町の総合住宅展示場「上毛新聞マイホームプラザ高崎会場」に、無垢の木材をふんだんに使ったモデルハウスを開設する。

木造2階建て、述べ床面積179㎡。同社は「木の香りに包まれる心地よさが体験できる。見て、触って、深呼吸して感じてほしい」としている。  
[12/20付上毛]

## 【代表取締役就任】

(株)高崎松風園、取締役造園部長・山口俊輔氏(前橋支部所属)は、この度、「代表取締役」に就任しました。

## 【住所変更】

(株)Dream Climbers、代表取締役・大原岳氏(高崎支部所属)は、この度、下記のとおり住所を変更しました。  
〒370-0071 高崎市小八木町2020-6

消防設備・電気設備のことなら

# 関東防災工業株式会社

- 本社 〒371-0056 群馬県前橋市青柳町583-2  
TEL (027) 234-3351(代)
- 安中事務所 〒379-0126 群馬県安中市西上磯部1736  
TEL (027) 385-5261
- 東毛営業所 〒370-0801 群馬県太田市台之郷町732-30  
TEL (0276) 46-0736

ご家庭の消臭から大型脱臭装置まで...

【**においのプロ "臭気判定士" がご提案**】

株式会社デオ・プラス

群馬県高崎市浜尻町 586-3  
tel : 027-365-2236  
fax : 027-315-3236  
e-mail : ozone@deoplus.net



# 第8回 理事 会 報 告

日時 十二月十三日(火)  
十八時三十分

会場 同友会事務所会議室

出席者 (順不同・敬称略)

正副代表理事／古郡、山岸、田村、相沢、常任理事／布施、町田、前田、蜂巣、高橋(寿)、島山、高橋、理事／植杉、事務局／黒岩、阿久澤、保坂(役員計十二名)

## 【議事】

山岸副代表理事が議長をつとめ、古郡代表理事挨拶のもと開会となりました。

### Ⅰ. 報告連絡事項

1. 総務会報告  
相沢副代表理事より、本日開催された総務会の概要報告がなされました。

### Ⅱ. 承認事項

2. 各支部・部会・委員会報告  
七支部・三部会・三委員会・仲間づくりの代表者より、一分間報告が行われました。

### Ⅲ. 経営研究集会報告

3. 二〇一一経営研究集会報告  
保坂事務局員より、十一月に開催された経営研究集会について、参加人数やアンケート集計結果等が報告されました。また町田実行委員長より、御礼の言葉が述べられました。

### Ⅳ. その他

○田村副代表理事より、十一月十一日に開催された岩手同友会創立二十周年記念式典、ならびにその後の被災地への視察報告がなされました。

○十一月に開催された社員教育活動全国研修交流会、ならびに十二月に開催された共同求人活動全国交流会、及び南三陸町・気仙沼市視察の様子が黒岩事務局長より報告されました。

○クチキテック(沼田支部)が、同友ニュース(メルマガ)で取り上げられ、全国の会員にメール配信されたことが報告されました。

### Ⅳ. その他

1. 役員選考について  
各支部・総務会からの推薦に基づき新年度の理事候補者を審議し、理事会としてこれを信認しました。これを受け、常任理事候補を選考するまでのスケジュールが確認されました。

また、新年度の組織機構を検討し、組織変更案を決定しました。

2. 入退会者承認と仲間づくりについて

十一月理事会以降の入退会者(入会一名、退会六名)を承認。会員数は四四四名となりました。

### Ⅲ. 審議事項 (or意見交換)

仲間づくり担当会議ならびに支部長会の今後のあり方について率直な意見交換を行いました。

### Ⅳ. その他

1. 次回理事会の開催日程確認  
第九回理事会を左記の通り開催することが確認されました。  
日時：一月十日(火)  
十八時三十分より

会場：同友会事務所

## 『同友ぐんま(通常号)』広告募集

【広告料】2万円(一口×6回掲載)  
【スペース】縦44mm×横87mm(一口分)

\*掲載を希望される場合は、同友会事務局までご連絡をお願いいたします

群馬中小企業家同友会・事務局  
TEL 027-232-0001 FAX 027-232-0666

## アルミ精密部品の切削加工メーカー 有限会社 エーピーエム

充実した設備と長年培った確かな技術力で  
お客様のご要望にお応えします！

〒373-0847 群馬県太田市西新町103-2  
TEL0276-30-4058 FAX0276-30-4059  
URL : http://www.apm-f.com E-mail : fuse@apm-f.com

## 雨漏り調査無料

実際に水をかけ、さらに赤外線サーモグラフィによる画像診断で、水の通り道や入口を特定いたします。  
雨漏りでお困りの方、遠慮なくお申し付けください。



高品質・高機能塗装 (有)クチキテック 代表取締役 朽木 康  
〒378-0015 沼田市戸鹿野町324-3  
TEL 0278(22)0691 / 携帯 090-4911-8900